

令和7年度 第5回神奈川県ボランティア活動推進基金審査会議事要旨

日時 令和8年1月28日(水) 13:30~17:40

場所 かながわ県民センター3階 301会議室

■ 開会

(かながわ県民活動サポートセンター副所長から本日の予定を説明)

- 委員7名での開催
- 会議の流れを説明
 - 13時30分~14時30分 プレゼンテーション審査前の事前確認
 - 14時40分~16時00分 令和8年度実施分 ボランティア活動補助金(継続)のプレゼン審査
 - 16時10分~17時35分 プレゼン審査に対する選考
 - 17時35分~17時40分 令和8年度実施分 協働事業負担金(継続・新規)の協議調整状況の報告
- 17時40分 閉会

(審査会長職務代理者より開会の宣言)

- 令和7年度第5回神奈川県ボランティア活動推進基金審査会を開会する。
- 本日の会議は、率直な意見交換の場を確保し、公平な審査をする必要があるため、神奈川県情報公開条例第25条第1項第1号に該当し、非公開とする。
ただし、プレゼンテーション審査は公開とする。

■ 審議事項 令和8年度実施分 ボランティア活動補助金事業(継続)の選考

(基金事業課長から以下について説明)

- ボランティア活動補助金(継続・新規)事業分野別申請状況(資料1)
- ボランティア活動補助金(継続・新規)の予算要求額(資料2)
- 審査委員と利害関係のある団体からの申請なし
- 事務局からプレゼン審査対象団体の申請概要及び幹事会での事前調査結果について報告(資料3)

(委員による審議)

- ボランティア活動補助金(継続)の申請事業に係るプレゼンテーション審査における確認事項等について検討した。

(プレゼンテーション審査の実施)

- ボランティア活動補助金(継続)の申請事業に対するプレゼンテーション審査を次のとおり行った。なお、傍聴はなし。

【政令市を含む神奈川県内の認知症支援基盤の強化を図る事業】

一般社団法人神奈川オレンジネットワーク（以下「オレンジネットワーク」という。）によるプレゼンテーションを実施。

<質疑>

（松村委員）

2年間事業を実施し、実績としてどんな手ごたえがあったか教えてほしい。

（オレンジネットワーク）

相手方の評価としてはアンケートがある。その分析はまだできていない。表にして何%などはできるが、自由回答欄の分析は手がついていない。ただ非常に高い評価をいただいていることは事実である。全文ではないが、毎回アンケートをとっており、数多く評価をいただいている。取組としてはそれでよいと思っている。足りない点は、彼らの活動を吸い上げてこなかったことが反省点としてある。来年度はそれに取り組みたい。

（松村委員）

反省点は具体的にどんな点か。

（オレンジネットワーク）

アンケートはたくさんもらったが分析していない点。

（松村委員）

分析できていない理由は何か。

（オレンジネットワーク）

忙しかったということ。

（松村委員）

来年は忙しくなくなるということか。

（オレンジネットワーク）

そうである。団体の中でも自身の仕事量を半減させたいと理事会で提案し、結果、チーム制とし、役割分担をし、事業は縮小せずに事業を有効に円滑に参加者ニーズに応える形にした。そのチームにアンケート分析チームを組み込めばできると思われる。

（松村委員）

3年目事業が終了した後の中長期的な計画を教えてほしい。

(オレンジネットワーク)

毎回ハイブリッドにしていたが、業者に頼まざるを得ない状況であり、団体のマンパワーで考えるとオンライン配信に対応できる人がいなかった。費用がかかっていたため、オンラインはやめて会場のみとするということが2027年度以降可能となる。

また、カフェ学会の抄録を無料で3年間郵送していたが、4年目からはやめる。印刷代やデザイン料や郵送費、郵送作業費が25万円から30万円ほどかかっていたが、なくなる。

これらで省力化していくことで、費用の低減をはかり、活動自体は充実するが、目に見える関係がつけられることを強みとしていこうと思っている。活動を絞っていくことが大事。

(松村委員)

費用を削減して活動をフォーカスするという感じで、強みを出すことでいうと、対面でやっていくとのことだが、具体的にどのようなものを強みとして出していくのか。

(オレンジネットワーク)

グループセッションを入れていく。参加者が受け身で聞きに来たという姿勢はやめにして、参加者がグループの中で発信して、スタッフがそれぞれ1人入り、参加者の声を拾い上げ、報告会で発表していただくようにする。参加者意欲や活動意欲が高まると思う。

(松村委員)

3つの事業をどのように企画調整を進めているか。

(オレンジネットワーク)

初年度から言われているが、団体としては一体で取り組んだ方が相乗効果はあると思っている。実際、買い物支援だけをやっていたグループが、その合間にやっていたお茶を飲むことで認知症カフェとなり、認知症カフェを始めたら、地域の認知症カフェに呼びかけ連絡会を作り始めた。というように、地域のサポート活動が認知症カフェになり、それが連絡会になる、連絡会でサポート活動を知り、それが自然と広まるという実例がある。この3つを同時にやっていくことで同じような広がりができると感じている。

(松村委員)

この1年間はここをフォーカスしてやっていき、3つ連携させていくなど、そういうことは考えているか。

(オレンジネットワーク)

常に3つ連携させてやっている。テーマは常に一体と考えている。

(松村委員)

年間通して変わるものではないか。

(オレンジネットワーク)

これからも一緒だと思う。逆に少し増えている。認知症カフェをやっていると施設カフェをやってほしいという声上がり昨年度1回開催した。病院関係者ともつながっていて、医療関係者のカフェをやりたいという声が出ている。来年度、補助金事業とは別に実施するが、それも連携している。

(田中委員)

参加者数の報告があるが、それ以外の成果として、この事業で具体的にどのようなことが起これば、地域の認知症支援基盤が強化されたと考えているか教えてほしい。アンケートでこういう変化があった、と出てくれば成功だと考えているか。

(オレンジネットワーク)

団体の会員ではかるか、それ以外の人たちもたくさん参加しているのでそういう人たちではかるかにもよるが、会員の中で参加することによって質的な変化があったかどうかをアンケートで聞くことはできる。ただそれだけでは足りず、会員、非会員の方は地域全体を視野に入れているため、そこに対するアンケートは、政令市や神奈川県との協力を得る必要がある。地域支援活動の調査を行う必要がある。現状ではマンパワー的に足りない。

【持続可能な障害者スポーツ活動のための人材育成と理解促進事業】

特定非営利活動法人 Fun Place 39 (以下「Fun Place 39」という。)によるプレゼンテーションを実施。

<質疑>

(山岡委員)

将来的には行政の委託につながると言われていたがすぐには難しいと思う。3年間実施すると講座を十数名の方が修了するが、その方たちへのフォローアップも含め、令和9年度の見通しを教えてほしい。

(Fun Place 39)

すぐには難しいと思うが、4月から横須賀市のスポーツ条例が施行され、議員や行政に窓口を設けてもらう約束は取れている。

これまで受講された方が、1年目に4名、2年目に3名いる。1年目のうち2名が実際に今年度の活動現場に入り、指導員ボランティアとして働いている。今年の3名のうち、2名は来年度の事業に共に活動する約束をしている。それ以外の方は、横須賀以外の県内、または全国のパラスポーツの資格取得に行き、高いモチベーションで挑戦している。そこを強みとして行政に伝え、活動を広げていきたい。

(山岡委員)

高いモチベーションを持って活動していることは嬉しいことだが、事業を継続し、修了生の活躍を支えていくことが団体として大切だと思うがどう考えているか。

(Fun Place 39)

2年前から始めたインクルーシブイベントを11月に横須賀市で行っているが、参加者が神奈川、東京、関東近郊、東北などから多くいらっしやっている。またイベントに関わる役員、ボランティアの方も団体のつながりにより全国から来ていただいている。そのような場に講座を受けた方も一緒に取り組みながら、引き続きフォローしていきたい。

(山岡委員)

プレゼンの中で主催イベントを盛り上げていく、受講生が現場実習として関わる場として活用していく言われていたが、それ以外に事業1と事業2のつながりをどう考えているか教えてほしい。

(Fun Place 39)

事業1、2は同時に実施している。事業2は地域企業、学校、行政に後援をいただき行ったイベントである。そこに受講生も運営に参加していく。そして集まったすべての方が、運営のありのままの状況に対して、障害を区別することなく見て知っていただけた。

また、地域の20団体の方にブースを出していただいております。障害の有無関係なく体験できることで、パラスポーツに対するイメージへのハードルを下げられるイベントになればと思う。人材育成を行い、イベントの実施もしながら相乗的にパラスポーツへのイメージアップに繋がればと思っている。

(山岡委員)

補助金事業の申請当初の3年計画と比べると令和8年度の補助金額が大幅に増えているが、これは事業2が反映されているという理解で良いか。

(Fun Place 39)

そうである。1年目は半日実施で定員100名に対し、180名程度の応募があった。2年目の実施では、場所も1年目はプールのみだったが、施設全体を提供していただき、300名の募集で580名が来場された。皆様に楽しんでもらえるものを作りたいと思う。

(田中委員)

多くの方を巻き込んだ事業に発展しており素晴らしい。

他団体との関わりについて、活動事例はあると思うが、制度、仕組みとして外部に人材をつなげる仕組みを作る必要があると思うが、どう考えているか。

(Fun Place 39)

同じような事業を実施している団体もあり、イベントを通じて連携している。ボランティアフェスタでのつながりを通して、昨年は2回ほど他団体とイベントを開催した。

(田中委員)

受講者数が少なかった要因について、受講者のターゲットは福祉従事者、スポーツ指導経験者、学生者どこにターゲットを置いているか。

(Fun Place 39)

チラシを配れる場所が行政機関、スポーツ施設、学校施設で、ターゲットをそこまで絞って募集を行ってはいなかったため、今後はターゲットを絞っていければと思う。

【キッズビデオワークショップとかながわ・わがまち映像祭の開催】

特定非営利活動法人ちいき未来（以下「ちいき未来」という。）によるプレゼンテーションを実施。

<質疑>

(為崎委員)

事業が進捗している様子は理解した。その一方で今年度の課題である映像ワークショップのブラッシュアップ、コンテンツのカテゴリでの整理が追い付いていないことや、教育映像コンテンツサイトへの準備が始まっていないことなど労力不足が見られているが、現在のちいき未来ではどのような体制で事業が行われているか教えてほしい。

(ちいき未来)

外部の若い方と取り組んでいる。また、岩崎学園とのつながりがあるので、これからもっと岩崎学園にお願いしていこうと考えている。

(為崎委員)

貴殿が理事長を務めているキッズディレクターでは、同じような事業を行っているが、そのことの住み分けについて教えてほしい。

(ちいき未来)

住み分けはしていない。キッズディレクターの若い方をお願いをして、ちいき未来で活動していただいている。

(為崎委員)

貴殿をヘッドとして、キッズディレクターの若い方とチームを組んでいるという理解で良
いか。

(ちいき未来)

そうである。ちいき未来としては岩崎学園で授業を行うこともあるため、岩崎学園の若い
方をお願いして事業をすることもある。

(為崎委員)

令和8年度も同様のチームで事業を行う予定か。ちいき未来内部で人材を育成する計画は
ないのか。

(ちいき未来)

ちいき未来は年齢層が高いため、若い人材を入れていこうと思う。

(為崎委員)

小田原で事業を実施したとあったが、神奈川県内における山間部など、映像制作体験の機
会が得にくい地域で事業を実施できる見通しはあるか。

(ちいき未来)

山北で始めてはいるが、そこに私は行けていない。実施はできるが私自身疲労でなかなか
いくことができていない。

(為崎委員)

キッズディレクターの若い方が行っているのか。

(ちいき未来)

山北には、湘南市民メディアの方が行っている。今は3団体で事業を実施している。

(為崎委員)

貴殿は年齢のせいもあって山北などに行けていないとの発言があったが、貴殿が退く際の
後継体制の見通しは立っているか。

(ちいき未来)

まだ立っていない。これからである。

現在は、当事業にキッズディレクター立ち上げの際の副理事や映像関係の人が入っている
ため、退いた後は副理事に依頼しようと思う。また、湘南市民メディアの代表の方もいるの
で、その方たちで作っていこうと思う。

(為崎委員)

今、3団体が連携しながら、各団体の強みを生かして行っている事業という認識で良いか。

(ちいき未来)

そうである。

(為崎委員)

将来の構想として、ユースメディアセンターの設立を掲げているが、そこに向けて誰がどのような責任をもって行っていくのか。

(ちいき未来)

基本的には私である。私と、キッズディレクターの方、湘南市民メディアの方、また岩崎学園に手伝ってもらおうと思っている。

最近、団地内の居場所づくりの話が出てきており、部屋の1室を貸していただけるという話をいただいているので、当部屋で実施しようと考えている。

(為崎委員)

居場所機能を兼ねつつ、ユースメディアセンターの機能を持った場所になるということか。

(ちいき未来)

そうである。現在、神奈川県が選定を行っているので、そこで実施しようかと思う。

(為崎委員)

居場所機能を持たせるために、訪れてくる人たちの受入体制は整備できるのか。

(ちいき未来)

キッズディレクターの方でやっていこうと思う。

(山田委員)

ユースメディアセンターについて、こちらを設立することで自立を目指すのか。

(ちいき未来)

難しいと思う。コンテンツサイトを作っていく方がよい。

(山田委員)

計画に自立のためのユースメディアセンターと記載があるが、実際の利用料、教材販売など業務がプラスされていくと思うが、それに対してはどう考えているか。

(ちいき未来)

悩んでいる。ワークショップを減らして一般企業への営業関係を広げていきたい。また、教材づくりができそうなので注力していきたい。

(山田委員)

現在作られているプラットフォームは、受益者負担なのか、企業の協賛なのか。どのような方針で考えているか。

(ちいき未来)

企業や寄付でとれればと思う。映像コンテンツについてはお金がかかるので、企業にお願いする。一部サイトは簡易系にして、利用者から数百円いただく形にしようか悩んでいる。最終的には決めていない。

(山田委員)

収入について、会費・寄付金等が、令和7年度の実績が46万3千円を目指されているが、令和8年度予算が3万円に、令和9年度が50万円になっているが予算管理はどうなっているか。

(ちいき未来)

私の間違いだと思う。東急株式会社と連携しているため、事業収入は平常的に入ってくる予定。

(山田委員)

予算の46万3千円は東急との関係で達成できるか。

(ちいき未来)

そうである。

【県内2か所における日本語学習支援】

NPO法人多文化共生ボランティア団体KAM（以下「KAM」という。）によるプレゼンテーションを実施。

<質疑>

(尹委員)

事業2の綾瀬の利用者が少ない理由として、情報提供の不足が挙げられていたが、様々な団体から紹介があったが定着が今一つとある。子どもが来なくなる理由も掴めていないとあ

るが、ここを解明しないと課題解決にはつながらないと思うが、団体として理由はどのように考えているか。

(KAM)

綾瀬では近くに駅がなく、親の送迎がないと来られない。また、土曜はバスが限られている現状がある。そのため、親にどう情報を届けていくかを考えた時、チラシだけでは届いていない実態があるため、学校経由で配架する。また団体の評判を上げていくため、人材の育成も行っていく必要がある。

(尹委員)

保護者に対するアプローチはできていないのか。

(KAM)

保護者の状況によって子どもが来なくなることもある。

(尹委員)

ソフト面をフォローする体制が必要になると思うが、団体内部で解決できるのか。他団体との連携で解決するのか。フォロー体制についてどのように考えているか。

(KAM)

最終形は子どもがいるコミュニティのそばでやるのがいいと思うが、人材がいないので苦しい。ボランティアを確保することで子どもの近くでできればいいと思う。

(尹委員)

保護者の考えを変えてもらうようなアプローチを団体でできると考えているか。

(KAM)

学校もアプローチしているとは思いますが、文化の違いもありそれどころではない。昔の日本人みたく生活優先の状況である。

(尹委員)

生活が主体になっている保護者に対して団体側がアプローチすることができるのか。それとも他団体と連携しながらフォローアップしていくのか、団体としてどう考えているか。

(KAM)

行政書士相談コーナーで保護者の相談を待ちながら、子どものビザについて相談できる場所は作った。その他は学校経由で取り組むことだと思う。

(尹委員)

事業収入について減収の見込みとなるが理由は。

(KAM)

参加人数は去年よりは多いが、目標に対して届いていないからである。

(尹委員)

昨年の審査会では、事業に賛同する企業からの協賛を探るとあったが具体的に動いていることはあるか。

(KAM)

綾瀬市内に当たっているが協賛は得られていない。現在はパンフレットを作成しており広域で企業の協賛を集めていきたい。

(為崎委員)

綾瀬、高座渋谷の2箇所で行っていることで何か相乗効果は見いだせないか。

(KAM)

相乗効果は見いだせてくると思う。綾瀬から高座渋谷に手伝いに行っている方もいる。子どもの教室については、綾瀬は勉強を専門的に行っていくスタイルだが、高座渋谷は無料で楽しめる居場所に近いので、具体的なイメージはできていない。

(為崎委員)

2箇所の事業展開の違いは体制の違いにもあるように思う。高座渋谷はボランティアが多く、綾瀬はボランティアが少ない。綾瀬も手厚い事業展開を目指してボランティアを多く確保するために、高座渋谷のノウハウを入れていくといった相乗効果は目指せないか。

(KAM)

高座渋谷は大和市国際協会が入って一緒に行っている。綾瀬では6つの日本語教室と連携を深めるための年1回会議を行っており、その教室と協力しながらと考えているが、あまり結集できていない状況。

(為崎委員)

高座渋谷での既卒生への対応としての進路実現の支援についてはどう考えているか。

(KAM)

以前は、受験期に入って慌てて入ってくる方への対応は難しかったが、最近では教材の共有やノウハウが揃ってきたので当然実施していきたい。

(為崎委員)

県域に波及させてほしいと考えているが、県域に広めていくために提供可能なノウハウは何か。

(KAM)

日本語がゼロの子どもに対して初めのスタートするノウハウを提供することはできる。高校生まで見ているので入口部分のノウハウを提供することはできる。

【医療的ケアに関する啓発資料作成およびその配布】

特定非営利活動法人 Small Step（以下「Small Step」という。）によるプレゼンテーションを実施。

<質疑>

(高村委員)

今年度の1,800冊予定が2,000冊発行されているとのことで、第3、4、5作目で何冊ぐらい作る予定なのか聞きたい。2作目を300冊から100冊に減らしている理由は何か。

(Small Step)

印刷費がすごくかかることがわかったため、その兼ね合いで減らしている。

(高村委員)

1,800冊の配布先の内訳を教えてください。横浜市以外はどのような施設、場所に配布しているか。

(Small Step)

横浜市内の保育所に1,000冊程度配布し、他では小田原にある大学、絵本士の方、横浜市内中心ではあるが福祉事業所にも配布している。エリアは活動範囲になる横浜が中心。

(高村委員)

医療的ケア児の関連団体とのつながりの進捗を教えてください。

(Small Step)

保育園に絵本をお送りして直接電話をかける際、悩みや現状を聞くことで、連絡しやすい関係性を作ることができた。その関係性から当団体のイベント案内、お知らせを送ることができている。

(高村委員)

他団体とつながりができたのは一歩だと思うが、広域的、複合的なつながりができるとさらによいと思う。

(Small Step)

当団体の支援として、地域の保育園、小学校に看護師が医療的ケアで何うということも行っており、直接支援、イベントに何う話も上がっている。

既に医療的ケア児の支援を行っている団体は興味を持っていただけたが、全く関係のない方々に興味を持っていただけたので、そのような方が事業に就職したりすることもあるのでは。イベントの中でのつながりもあったので効果はあったと思う。

(高村委員)

出版した後の活用方法について計画について教えてほしい。

(Small Step)

上手くいってほしいのは出版社との共同出版。全国の保育園に物販している会社と話をしている。それが可能になれば、インクルーシブな保育が多くの人に届いていくのではと考えているので、進めていきたい。

(高村委員)

予算について、寄付が厳しい、人件費、委託事業費が多く支出が出ると報告いただいているが、計画通り5作品発行を目標としてよいのか。収入確保のために行っていることはあるが。

(Small Step)

5冊は出したい。NPOなので寄付金を増やすことを考え、寄付を募ったり、募金箱を置いたりしたが、難しさを感じた。第2作目は適正な価格をつけていければ可能性が広がっていくのではないかと。

(高村委員)

中間支援事業のスタッフ強化中とあるが、どのような人材育成に取り組んでいるか。

(Small Step)

すごく力を入れている。年々看護師が増えており、ツリー上に組織としてグループ分けし階層を作っているため、増えていけば人材の層が厚くなる。また、絵本を研修にも活用できているので、有用だったと思う。

(山田委員)

当事業で行う絵本は啓蒙として行うのか、課題解決に向かって使うのか。

(Small Step)

当団体は病気のある子どもを地域の中で自立できる環境を作るということをミッションに動いている団体である。実際に保育園事業、地域の保育園、小学校での医療的ケアの支援は法人のみの活動となっている。受け入れる施設、地域の方の理解が追いついていないという現状もあるため、並行して進めていくことだと思う。

(山田委員)

他の施設で起こった問題に対して相談に乗ると書いているが、当団体が法的なバックアップや、実務指導の責任をどこまで負えるのか教えてほしい。

(Small Step)

実際に支援を行っている団体に対しては細かく取り決め、保険をかけて行っている。啓発活動での発言には責任を持たないといけないことについて、医療ケア、コーディネーターには出張を行っているが、行政、関連団体にも理解は得ていきたい。

(山田委員)

絵本を送られたことによって理解が深まり感動した自然に関わりたいという表現があるが、受入を担当する施設関係者、行政担当者に対して、それ以上に説得するためのロジックはあるか。

(Small Step)

実際に看護師の派遣を行えるため、実務関係であれば責任をもって支援を行える。

(委員による審議)

- ボランティア活動補助金事業(継続)の申請事業に係る公開プレゼンテーション審査の結果を踏まえて審議を行い、事業を選考した。
 - ※ 選考結果は後日団体に通知。

■ 報告事項 令和8年度実施分 協働事業負担金(継続・新規)の協議調整状況

- 令和8年度実施分 協働事業負担金(継続・新規)協議調整状況について、事務局から報告。(資料5)

■ 閉会

(審査会長職務代理者より閉会の宣言)

- 令和7年度第5回神奈川県ボランティア活動推進基金審査会を閉会する。

(以上)